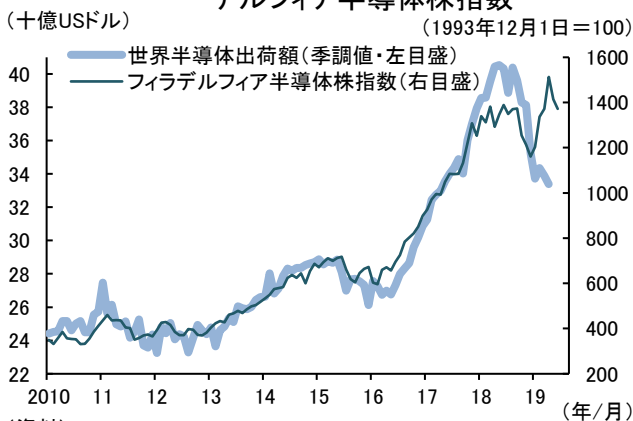


半導体市場は持ち直しへ

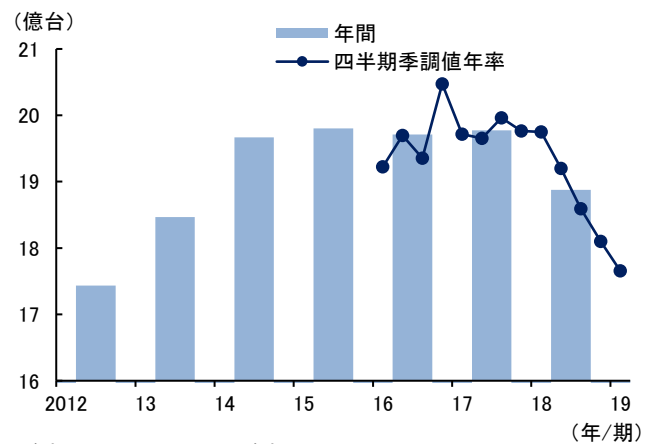
～デジタルライゼーションの進展で基調的に市場は拡大～

- (1) 世界の半導体市場は2018年末から急速に縮小（図表1）。スマートフォンの普及一巡や、データセンター投資の一服などが背景（図表2、3）。足元では、メモリ価格の下落も加わって、一段と下振れ。
- (2) もっとも、先行き半導体市場は持ち直しに向かう見込み。実際、世界の半導体出荷額と連動して推移してきたフィラデルフィア半導体株指数（SOX指数）が、2019年入り後に大きく上昇（再掲図表1）。
- (3) スマートフォンは買い換えサイクルが数年程度であることを踏まえれば、昨年後半からの販売不振で買い換え需要が蓄積している状況。最大市場である中国の月次出荷台数をみると、足元で底入れの動き（図表4）。データセンターについてもクラウド需要の拡大を背景に投資は持ち直し見込み。加えて、AI、IoT、車載関連など新分野での需要拡大も下支え。こうしたなか、世界のIT市場の動向を反映する台湾のIT主要企業の売上高も春以降は持ち直し（図表5）。

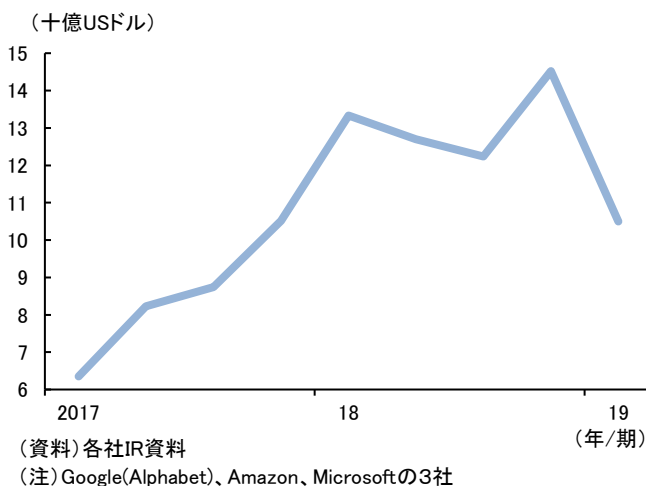
(図表1) 世界半導体出荷額とフィラデルフィア半導体株指数



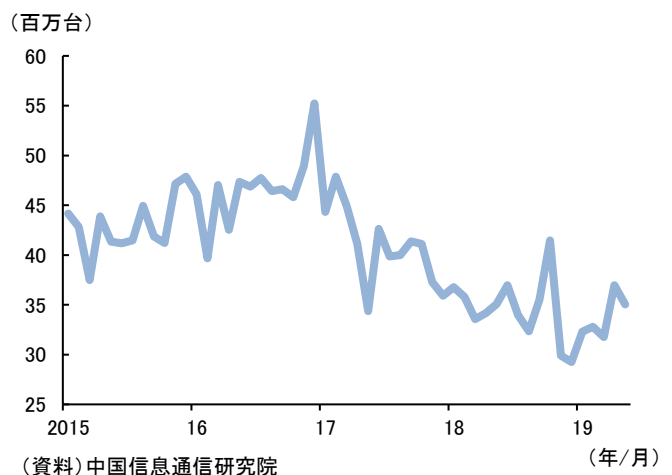
(図表2) 世界の携帯電話出荷台数



(図表3) 米クラウド大手3社の設備投資額



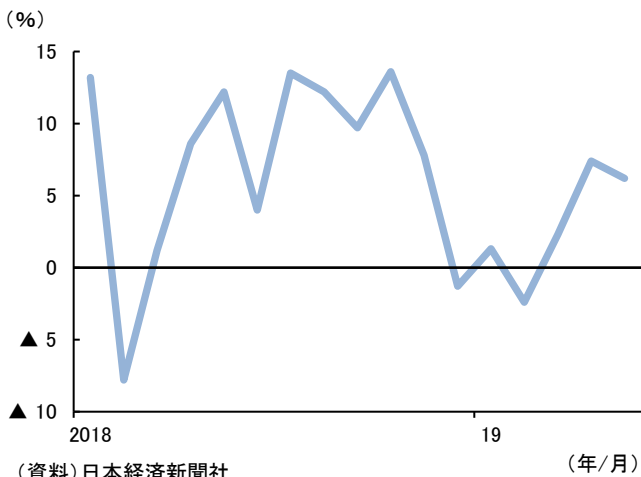
(図表4) 中国の携帯電話国内出荷台数(季調値)



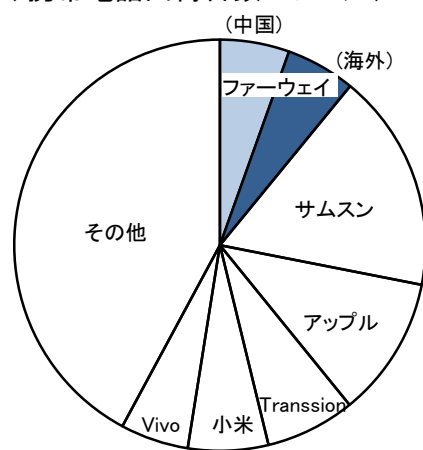
【ご照会先】 調査部 副主任研究員 成瀬 道紀 (naruse.michinori@jri.co.jp , 03-6833-8388)

- (4) 5月に入り、米国が中国通信機器大手ファーウェイへ輸出禁止措置を発動したものの、SOX指数が小幅下振れにとどまっていることから判断する限り、半導体市場への影響は限られる見込み。携帯電話についてみれば、ファーウェイの世界シェアは11%（2018年）で、制裁の影響を受けるとみられる海外販売分はそのさらに半分の年間約1億台（図表6）。報道によるとファーウェイ社は海外販売の4割にあたる4千万台の減産を見込んでいるものの、これは世界の携帯電話市場からみれば2%強。他メーカーによる代替生産が可能で、携帯電話の需要が大きく損なわれることはない見通し。
- (5) 今後、米国がスマートフォンやノートPCなどにまで対中関税を広げた場合は、さすがに半導体市場の回復が遅れるとみられるものの、その場合でもデジタルライゼーションの進展に伴い半導体の用途が大きく広がるなか、半導体市場が基調的に拡大していく潮流は不変。

(図表5) 台湾IT主要19社の売上高(前年比)



(図表6) 携帯電話出荷台数のシェア(2018年)



【ご照会先】 調査部 副主任研究員 成瀬 道紀 (naruse.michinori@jri.co.jp , 03-6833-8388)